くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

# エコシティ志木通信

12月1日号（№60・年4回×15年です号）

2010＊12月

NPO法人エコシティ志木
代表理事　天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
http://www.cc.e-mansion.com/~eco/

写真：山崎光久

勝手にレッドデータ of 志木（46）

## スッポン

柳瀬川の高橋と栄橋の間の中州に甲羅干しをしているスッポンがいました。自然のものか、誰かが逃がしたものか分かりませんが、昨年と今年、いずれも 9 月に出合いました。

私は触ったことはありませんが、スッポンの甲羅の表面は柔らかく、英名は Soft-shelled turtle( 柔らかい甲羅を持ったカメ ) と言います。他のカメのように 6 角形の燐板はなく、ツルッとした感じです。

「スッポンは喰いついたら雷がなっても離さない」と言いますが、噛み付く力は強く、近付くとすぐに噛み付く性質があります。

（山崎光久）

9/5（日）

志木まるごと博物館化計画　惣囲堤と水塚の文化に学ぶ事業

## 暴れ川「荒川」と闘った川島町の水塚

比企郡川島町は四方を川に囲まれており、川の氾濫がもたらす肥沃な土壌で昔から稲作が盛んで周囲には広大な田園地帯が広がっています。一方、昔から洪水の氾濫原になっていたため、今でも水塚が200ヵ所もあるとのことです。

我々は、川島町の水塚について調べるために川島町出丸下郷の長沢さん宅を訪問しました。

「記録では、明治40年、43年、それから大正2年、昭和16年に大水が出ています。この時は牛に食べさせる藁もなかった」「私が経験したのは、昭和22年のカスリーン台風。このとき小学校に行っていたけど、入間川の釘無で堤防が決壊し、全員水防作業に駆り出された。今は、荒川をまっすぐにし、堤防を嵩上げし、1kmくらいある横堤も築造され、被害は起きていない」「水塚の土盛りは母屋から約1m。蔵は、ペリーが来航した嘉永5年(1852)に建てたと棟木に書いてある」

「荒川では昔みんなよく泳いでいた。うなぎ、なまず、ライギョがとれた」

「川島の米はうまい。『いごみ』といって、洪水で流され溜まった土が肥料になるからなんだな。洪水で米がうまくなる」

長沢さんのお話をうかがい、水塚は先人の治水に対する歴史的な遺産として今後、後世に残す必要性を感じました。

［川越達郎さんのレポートより］

9/11（土）

こどもとおとなの自然塾

## 秋の夜に虫の声をきこう

記録的な猛暑が続く中、夕方から「秋の夜に虫の声をきこう」を開催しました。

サミット前に集まった参加者は、6家族（おとな8名）、こども5名、他にスタッフ8名総勢21名でした。

虫取り網を持って、サミット裏の川原で虫を探し、親子で一生懸命に虫取りをしました。

捕まえたのは、エンマコオロギ、トノサマバッタ、クビキリギス等11種類で、毎年10種類ぐらいの昆虫が観察されます。

今年は生物多様性を守る10回目の国際会議（COP10）が10月に名古屋で開催されましたが、最近の柳瀬川の夏の河原は大型外来植物の「アレチウリ」、「セイバンモロコシ」や「イヌビエ」などで覆われ、昔から日本で見られた植物が見られなくなっています。いろいろな種類の植物があれば、それを食べるいろいろな種類の昆虫や野鳥がいて、まさに生物多様性が実現するのですが、残念ながら失われてきているのが現実です。

すっかり暗くなってから、柏町の住宅街の方へ行き、カネタタキのチンチンチンという鳴き声を聞くことができましたが、これも樹上で鳴く外来種のアオマツムシの声にかき消されていました。

［山崎光久］

11/3（日）

志木ぶらり散歩

## 童心に返った「志木の崖線めぐり」

秋晴れの空の下、「志木の崖線めぐり」に参加しました。新米会員の私にとって初のイベントです。当日の参加者は 35 名。

志木駅を出発し、慶応志木高校、ごんべー山、谷津地を通り、新河岸川沿いに出ます。志木の地形や歴史、野火止用水路などのお話を伺い、地図とにらめっこをしながら崖線を巡って行きます。長さも傾斜も様々な味のある坂道、迷路状の道が続き、自然と心が躍り、どんどん足が進みます。

後半は、城山貝塚、長勝院跡、千手堂などの郷土の史跡も訪ねました。崖線の縁は住みやすいので発展していったことがよく分かります。志木に長く住んでいるにも拘わらず、この度「ハタザクラ」に感動の初対面です。開花の時期に是非また会いに来なくては。

崖線部にまとまって残っている貴重な緑は人だけでなく生き物の憩いの場所。こもれびのこみち斜面林やふれあいの森では、蝶やカマキリが私たちを元気に迎えてくれました。踏み締める土は雨水を蓄えて、しっとりとしていて温もりも有り、心まで軟らかく和んで行くようでした。

志木の良さを再発見し童心に返った、楽しい半日の散歩でした。

［大田文佳］

11/6（土）

## 第 8 回新河岸川流域川づくり懇談会

毎年行われている新河岸川流域に関わる埼玉県庁の部署と市民団体との懇談会で、朝霞市リサイクルプラザで開催しました。今年は、朝霞・川越・飯能県土整備事務所からの「平成 22 年度事業概要」についての説明、埼玉県環境科学国際センター金澤さんからの「アユの棲む川づくり」についての講演、朝霞・川越・飯能県土整備事務所からの「水辺再生事業」についての紹介、全体での「市民参加による河川の維持管理」についての意見交換が行われました。

意見交換では、行政の川づくり検討委員の選考方法、魚の棲みやすい川づくり、川の外来生物問題、川づくりの地域ルールなどの意見が出されました。

［伊藤智明］

（撮影：黒目川の景観を考える会　小林一己さん）

# 柳瀬川水族館 と 展示 の出前をおこないました

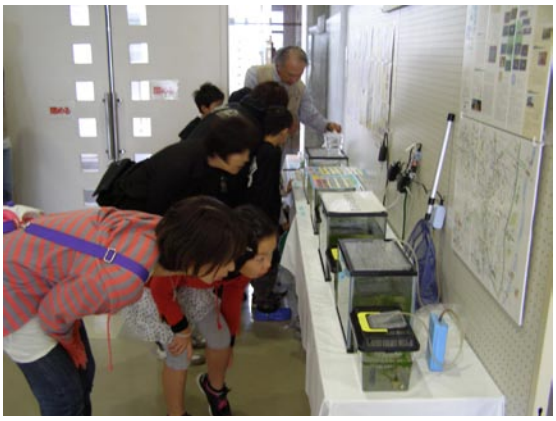
柳瀬川のお魚たちや石に隠れていた小さな生き物たちに出演してもらう「柳瀬川水族館」と、エコシティ志木と（財）埼玉県生態系保護協会志木支部が協力して行う活動の様子のパネル展示を開催しています。今年はさらに、宗岡を中心にした水塚（みづか）調査の展示も加わりました。

◇

**10月22日（金）～24日（日）**
**いろは遊学館ふれあい祭り**

＊22日は「志木小学校しきっこまつり」
会場＝いろは遊学館
主催＝いろはふれあい祭り運営委員会

当会は「出前水族館」や水塚調査等の展示で参加しました。



いろはふれあい祭りで、水槽を覗く見学者

**11月21日（日）**
**志木市民まつり「カッパだよ！全員集合!!」**

会場＝志木市民会館およびパルシティ通り
主催＝志木市民まつり実行委員会

当会は、志木市民会館の駐車場スペースの会場で「柳瀬川水族館」と活動展示をおこないました。同時に志木ぶらり散歩マップや資料の無料配布を行いました。

特に「柳瀬川水族館」のヒルやガガンボの幼虫、ヤゴなど小さな生き物はなかなか見る機会がなく、親子連れの見学者はなどは興味津々で一様に驚いていました。

また、天田代表が別のブースで水質調査体験を行いました。

志木市民まつりで。大勢の見学者が来てくれました。

**11月27日（土）**
**つむじ銀杏で街合わせ**

会場＝ぺあも～る商店街
主催＝たてのよこいと

模擬店やバザーがならぶ中、当会は「柳瀬川水族館」を展示しました。

志木市民まつりで。今まで見たこともない、ニョロニョロ動く小さな虫たちに驚きつつも興味津々…

# 新河岸川水辺再生事業が実施されます

埼玉県では平成 20 年度から 23 年度の 4 年間に「水辺再生 100 プラン」事業として、県民が川に愛着を持ち、ふるさとを実感できるために、「清流の復活」「安らぎとにぎわいの空間創出」等を目指す事業を県内 100 か所で進めています。

事業箇所は県民からの提案応募により選ばれますが、昨年度行われた最終期の募集に志木市民から多くの応募があり、審査の結果、いろは橋下流の新河岸川が採択され、このほど実施されることとなりました。

対象エリアは柳瀬川の栄橋・新河岸川のいろは橋より下流で郷士樋管（宗岡のせせらぎのこみちの流末）までの両岸の堤防に挟まれた河川敷全体です。

近隣住民等の市民 11 名に県・市の関係者を加えたメンバーによる検討会が 6 月から 10 月までに 3 回開催され、当会から代表の天田が出席しました。会議では、県から基本方針や基本計画案が提示され、意見交換が行われました。

計画は『市民の憩いの場』『自然を守りふれあえる場』『歴史を知る場』『景観性を活かした場』『誰でもが安全に利用できる場』を目指し、次のゾーンに分けられています。

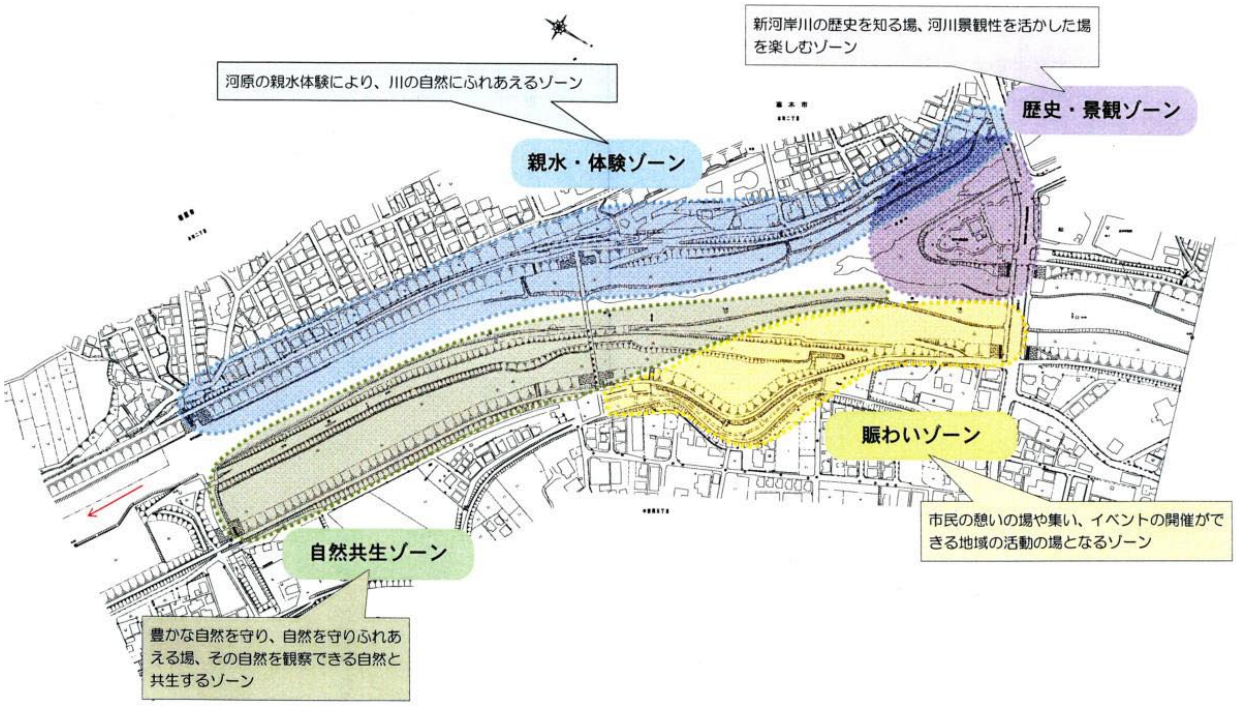
**●賑わいゾーン**：いろは橋下流に船着場、河川敷の河畔広場（駐車場）、堤防のカーブを活かした多目的広場とそこに面した堤防に観客席になる階段護岸、三代の堤防等の治水の歴史についての案内解説板の設置

**●自然共生ゾーン**：昭和の堤防と平成の堤防に挟まれたヨシ・オギ群落の保全、合流点付近の水際のカワセミ営巣地の保全、平成の堤防に沿ってサクラの植樹

**●親水・体験ゾーン**：水際の砂州に降りられる階段護岸や緩やかな水際の護岸、河川敷に遊歩道とその脇に花壇設置、斜面林下の湧水の流末を利用したせせらぎ水路

**●歴史・景観ゾーン**：旧引又河岸部分に階段護岸、村山快哉堂裏に眺望の良いテラス、歴史解説板の設置

検討会は、回数・時間が少なく、計画案の現地での検証もなく、市民参加の面からも満足のいくものではありませんでしたが、現在、詳細設計を行っており、年明けから早くも工事が始まります。こうした整備工事は県が実施しますが、維持管理は地域住民が行うことが前提条件です。当会では隣接する斜面林の手入れ作業とともに、「彩の国リバーサポート」制度にもとづき富士下橋付近から下流の右岸河川敷・堤防のごみ拾いと外来植物除去作業を行っており、今後も引き続き取り組んでいきます。　（天田 眞）



荒川・春の投網大会での船上からの投網

# 埼玉南部漁業協同組合について

NPO 法人エコシティ志木事務局長 **伊藤 智明**

### （１）埼玉南部漁業協同組合について

埼玉南部漁業協同組合は、新河岸川流域を含む埼玉県の南部地域の漁業権を有する漁業協同組合（以下､組合）です。漁業権とは「川や魚の所有権」ではなく、「その川において魚を捕る権利」です。

組合は漁業権を釣り人等の遊漁者にも解放するとともに、遊漁者にも放流や産卵場造成の増殖に係る費用負担として遊漁料を徴収しています。

漁業や釣りに関するルール（制限・禁止）は、埼玉県漁業調整規則や内水面漁場管理委員会指示、各組合の遊漁規則に定められています。詳細は埼玉県のホームページをご参照ください。

なお、アユの禁漁期間が１月１日～５月３１日までというのは知られていますが、朝霞支部では黒目川で、アユの産卵期間の禁漁や、子どもが怪我をする危険性のあるコロガシ釣りを禁止するための働きかけをしています。

### （２）漁場監視員について

漁場監視員は、遊漁料を徴収する人として知られていますが、役割としては、「河川漁業関連法令の解説者」、「河川漁業協同組合の窓口担当者」、「放流財源確保の担い手」､「遊漁料納付の取扱者」、「水産資源の保護啓発者」、「漁場保全の推進協力者」、「釣り場の案内者」、「水産学の調査研究者」、「水辺環境の案内者」などがあります。

埼玉県では「埼玉県漁場監視員講習要項」に基づき埼玉県漁業協同組合連合会が講習会を実施し、その修了生の中から所属の組合長が選任することになっています。

### （３）遊漁料について

遊漁料は、一般的に入漁料や鑑札、釣り券などと呼ばれているものです。組合員以外の方が釣り等をする場合に必要なもので、そこの組合又は組合指定の取扱店（釣具屋等）で購入出来ます。漁場監視員が確認を求めた際には、提示する必要があります。（遊漁券取扱店については、埼玉県のホームページをご参照ください。）

なぜ、遊漁料が必要かというと、河川は生産力が低く、漁獲により魚類資源の枯渇が心配されるため、漁業権を免許された組合は、放流などによる増殖が義務づけられます。一方、河川は、組合員だけでなく、釣り人の利用も大きいため、釣り人にもこの増殖にかかる経費を遊漁料によって負担してもらうことになっています。組合員も漁業権行使料を組合に納入して同様の負担をしています。

### （４）特別採捕許可について

特別採捕許可は、試験研究等（試験研究、教育実習、増殖用の種苗（種卵を含む。）の供給（自給を含む。）又は特別観覧に供するためのう飼漁法）を行うため知事の許可を受けるもので、埼玉県漁業調整規則で制限や禁止がされている、「採捕の期間」、「水産動物の全長等」、「漁具及び漁法」、「採捕の区域」、「さく河魚類の通路を遮断して行う採捕」の適用を除外することができます。

なお、漁業権漁場で漁業権魚種を採捕する場合には、あらかじめ組合の承認を受けることが定められており、採捕を行うには、特別採捕の許可を受けるだけでなく、組合の承認も受けることが必要となっています。

当会では加盟する新河岸川水系水環境連絡会として、埼玉南部漁業協同組合の承認を受け、当会魚類調査メンバーが知事の許可を得ています。


＜参考資料＞
・埼玉県　生産振興課　水産のページ
　http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k07/
・埼玉南部漁業協同組合「パンフレット　埼玉南部地域釣り場マップ」
・埼玉南部漁業協同組合「平成２１年度総代会議案書」
・埼玉県漁業協同組合連合会「平成２０年度漁場監視員講習会資料」

金子秀樹の

# 農業日記 ＜8＞

今回は、我が家に及んだ今年の猛暑について書きたいと思います。

## お米の収量は落ちたが品質はまずまず

まず、お米についてですが、今年は例年より一割程度収量が減りました。宗岡全体でも収量が減少傾向のようです。

お米の出来ですが、我が家は、刈り取り時期が遅かったため２等米になりましたが、宗岡全体では、２等米が少し増えた程度で、新聞に書かれているほどひどい状況ではありませんでした。

宗岡の米の等級が例年とあまり変わらなかったのは、宗岡の農家が米作りについてよく知り実践した為だと思います。

以前、「夜、水を入れたほうが田んぼの温度を抑えることができ、よい米ができるぞ」と言われた事があります。思い出してみれば、今年の夜は、田んぼで多くの軽トラを見かけました。今年は、特に夜の水掛を実践している農家が多かったので、収量は落ちましたが品質があまり落ちなかったものと思われます。

私はと言うと、週末か夜しか田んぼに行くことが出来ませんので、結果としては、米作りに良い方向で今年も米作りが出来たようです。ただ、刈り取り時期を間違えたのが今年の反省点です。

## 猛暑の影響を受けた大豆

猛暑の影響受けたのは、大豆でした。

今年の大豆は、例年になく苗が大きくなり、病害虫の影響も少なかったので豊作を期待したのですが、８月になっても実が大きくならず、９月になってからようやく大豆の実が膨らみ始めた状態でした。

10 月には、枝豆としてよく食べましたが、今年は、大豆としての収量は、あまり期待で出来そうにありません。（収穫は、11 ～ 12 月頃を予定しています）

こんな天候不順の中でもさつまいもは、変わらず収穫できました。

ただ、畑が粘土質の為、売られているような形でなく、少し丸くなりますが、味は変わりません。

**我が家の１年分の生ゴミが入ったコンポスト**

我が家も冬野菜の植え付け等が終わり、後は、コンポストの中身（1 つに我が家の１年分の生ごみが入っています。１年後には、中身が 1/3 程度になります）を畑に蒔いて、大豆を収穫すれば、ほぼ今年の農作業は、終わりです。

**今年の枝豆**

**丸いさつまいも**

**さつまいも畑**

生き物情報は→　ファクス 048-471-4275　e-mail：qwj11624@nifty.com（毛利）へ
ホームページ「発見 !! 街の自然」http://kappa-no.net/sizen-info.html

《鳥類》
**コガモ**→ 9 月 19 日（日）柳瀬川ウオッチングで
**モズ・アオサギ**（各 1）→ 10 月 17 日 ( 日 ) 柳瀬川ウオッチングで
**コガモ**（11）→ 10 月 17 日（日）柳瀬川
**タシギ**（2）→ 10 月 17 日 ( 日 ) 水谷田んぼ。柳瀬川ウオッチングで
《昆虫》
**ナガサキアゲハの幼虫**（1）→ 9 月 18 日（土）西原ふれあい第三公園のナツミカンの木に [ 天田眞 ]
《ほ乳類》
**ネズミ**（3）→ 9 月 18 日（土）幸町のサツマイモ畑で、生まれて間もないと思われる（眼が十分開いていない）ネズミの子（4cm 位）がよちよち歩きで出てきました [ 天田眞 ]
**イタチ**（1）→ 9 月 18 日 ( 土 ) 荒川堤外田んぼを走っていた。赤茶色ですが色は変わるそうです。ウサギもタヌキもいるそうです [ 天田いづみ ]
**カヤネズミ**（3）→ 9 月 20 日（月・敬老の日）柳瀬川志木中前河川敷のセイバンモロコシの群落の中 [ 天田眞 ]
《魚類》
**ギバチ**→ 8 月 28 日（土）、9 月 19 日（日）　柳瀬川志木中前で［天田眞］
**アユの群れ**→ 10 月 17 日（日）柳瀬川・高橋の上から［毛利将範］

ナガサキアゲハ (8/18)［天田］

## 環境 ひとくちメモ（18）　伊藤 智明

# 「SATOYAMA イニシアティブ」

SATOYAMA イニシアティブは、人々が古くから持続的に利用や管理をしてきた「社会生態学的生産ランドスケープ」の維持や構築を図り、生物多様性と人間の福利に資する「自然共生社会」の実現を目指すものです。

そこで、「多様な生態系のサービスと価値の確保のための知恵の結集」、「革新を促進するための伝統的知識と近代科学の融合」、「伝統的な地域の土地所有・管理形態を尊重した上での、新たな共同管理のあり方（「コモンズ」の発展的枠組み）の探求」という 3 つの行動指針を提案しています。

2010 年 10 月に開催された COP10 では、SATOYAMA イニシアティブを有用なツールとして認識し、締約国その他の政府及び関連する機関に対して、更に発展させるためにパートナーシップへ参加することを勧奨する旨の持続可能な利用に関する決定が採択されました。

**詳細は以下のホームページをご覧ください。**
**SATOYAMA イニシアティブ　http://satoyama-initiative.org/jp/**

**☆会員状況**

2010 年度更新済み会員（11/24 現在）
個人正会員　54
　（内新入会　2）
団体正会員　2
賛助会員　3

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
★今年度も継続更新をよろしくお願いします。
★宛名シールに会費の有効期間が書いてありますので、チェックしてください。

**■当会の団体正会員**
志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部
**■当会の団体賛助会員**
慶應義塾志木高等学校
志木柳瀬川ロータリークラブ
**■当会が参加している、または主な協力団体**
志木おやこ劇場
いろは遊学館利用者の会
志木市コミュニティ協議会
柳瀬川流域ネットワーク
新河岸川水系水環境連絡会
新河岸川広域景観づくり連絡会
埼玉県南西部地域ＮＰＯ連絡会
（財）埼玉県生態系保護協会志木支部
市内小中学校
志木市立教育サポートセンター
志木のまち案内人の会
グループぽんぽこ
新河岸川流域川づくり連絡会

情報満載！
当会のホームページ

**公式ホームページ**
http://www.cc.e-mansion.com/~eco/

**志木まるごと博物館「河童のつづら」**
http://kappa-no.net/

**お知らせ**

## 「特別功労感謝状」をいただきました

市制施行 40 周年記念式典で、環境保全ということで「特別功労感謝状」をいただきました。当日、97 団体・個人に対して授与されました。

## 「水塚調査報告書」３月発行予定です

2009 年度から始めた「水塚調査」も、９月で現地調査が終わり、現在「報告書」の編集中です。

宗岡に水塚があることで、地域の自然環境が保たれているという漠然とした意識で調査を始めましたが、お陰様で大変貴重な報告書となりそうです。

私たち素人集団 19 名での調査ですが、ここまで詳細な報告ができるのは、インタビューに快く応えてくださった宗岡や他の地域の方々の真摯なお話しのお陰です。

また、この事業は生活協同組合ドゥコープ(2009年度)とサイサン環境保全基金(2010年度)から助成を受けて行っています。

貴重な体験や、水塚に秘められている知恵がいっぱい詰まった報告書は３月に発行予定です。お楽しみに！！

志木の昆虫記5

天田 眞

# 街で出会える楽しい虫たち

## オオスカシバとスズメガの仲間

スズメガ科には多くの種がありますが、幼虫は５㎝位から 10 ㎝以上までの大型のイモムシで、共通して尾部に角状の突起があるので一目で他の科と見分けがつきます。基本的には年２回発生で土中の蛹で越冬します。

成虫は太い流線型の胴体と比較的小さめで細長い翅が特徴で、翅をはばたかせる力は大変強く､昆虫の中では一番の高速飛行や空中静止(ホバリング）をしながら吸蜜を行います。飛びながら蜜を吸うためと好みの花の形により口が大変長い種もあります。

志木付近でも気をつけて探せばひと夏に 10 種類位のスズメガの幼虫が見つかりますが、種によって食草が異なるので、どの植物についていたかで種がわかります。例えば、【クチナシ:オオスカシバ】【クヌギ:クチバスズメ】【サクラ:モモスズメ】【ケヤキ:ウンモンスズメ】【ゴマ:シモフリスズメ】【サツマイモ:エビガラスズメ】【ヤマノイモ：キイロスズメ】【サトイモ：セスジスズメ】【ヘクソカズラ:ホシホウジャク】【ヤブカラシ：セスジスズメ、コスズメ、ブドウスズメ】

身近でよく見られるのがオオスカシバ。幼虫は食欲旺盛でクチナシの植え込みを丸坊主にしたり、成虫は蛾としては珍しい透き通った翅と黄緑色の派手な胴体で、昼間、蜜を求めてアベリアの植え込みを飛び回っています。

スズメガの幼虫は尾角が共通でも模様は様々あり、同一種でも色違いがあったり、皮膚がすべすべの種とざらざらの種があったりとなかなか楽しく飼育もしやすいので、自然学習にはうってつけです。

クチナシを食べるオオスカシバ

色違いのキイロスズメ幼虫

黒に黄の星が並ぶセスジスズメ

ざらざらしたクチバスズメ

キイロスズメ（大）とオオスカシバの蛹

口がかぎ形のエビガラスズメの蛹

オオスカシバ

ホシホウジャク

ウンモンスズメ

〈志木〉
**野鳥のいる風景**
**11**

# カワセミ

毛利 将範

飛ぶ宝石と言われるカワセミ。その名はよく知られていますが、自然界で見るのはなかなか希です。カワセミは清流の鳥の象徴のように言われ、確かに一時都会からは姿を消してしまいました。

それは、カワセミが、小魚や水生昆虫などを食べ、巣は水際の土手に穴を開けて作るという生態に関係しています。一時期、都市河川の汚染が極端に進み、エサとなる生き物が川からいなくなりました。また、都市部の川ではコンクリート護岸が普通となり、巣を作る場所が激減したのです。

最近、老人養護施設ルストホフに接するこもれびのこみちの通称「トンボ池」や柳瀬川でよくカワセミを目撃するようになりました。トンボ池ではホバリングや低空飛行からのダイビングを繰り返し、小魚を捕っている姿が見られます。好みの止まり場所があるようで、池に覆い被さっているミズキの決まった枝や、水面から突き出た杭に止まってエサを探しています。

大きさはスズメほどで、背の群青色は飛ぶ宝石の名にふさわしく翡翠(ひすい)の色に例えられるほど印象的です。また、ずんぐりした体型に、身体の割りに大きなくちばしという愛嬌あるスタイルも人気のもとになっています。

飛ぶときに「ツィーーッ」という金属的な声で鳴くことがあるので、慣れると声でカワセミの存在が分かります。

巣は、池や川の垂直な土の壁に丸い穴を掘って作ります。川の岸だと、増水したときに水に浸からない場所が必要です。また、ヘビや猫などの外敵が侵入できるような緩やかな斜面も使いません。当然､人が頻繁にくるような場所も避けます。

このように厳しい条件のなか、志木のカワセミたちはどこにマイホームを見つけたのでしょうか。飛ぶ宝石が安心して暮らせるように、静かに見守りたいと思います。

こんなちょっとした川岸。垂直で猫や人も近づけず、増水した水さえ来なければ営巣できそうです。

**編集後記**

◇通信の第 60 号をお届けします。年 4 回発行していますので、今号でちょうど 15 年活動していることになります。今後もどうぞよろしくお願いいたします。

◇広報部会ができましたが、最近ホームページやブログなどの更新が滞っています。皆さんのご意見をお待ちしています！！ (ふくろう)


エコシティ志木通信
第 60 号　2010 年 12 月 1 日
〈発行〉


**NPO法人 エコシティ志木**
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX　048-471-1338（天田眞）
URL　http://www.cc.e-mansion.com/~eco/
E-mail　eco-shiki@ff.e-mansion.com